

令和7年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

実施機関名(主事業の実施機関名)	島根県邑南町、島根県
ふ り が な	みちのえきみずほさいせいびじぎょう
1. 事業(施策)の名称	道の駅瑞穂再整備事業
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	令和 2年 4月 1日 ~ 令和 7年 7月31日
災害枠で推薦の場合	(災害発生日) 年 月 日 (災害名)
3. 事業費(工事費)	2,940百万円
4. キーワード	邑南町内12地区とつなぐ道の駅・複合拠点としての道の駅瑞穂再整備事業
5. 事業概要	平成5年に道の駅「瑞穂」として登録後、平成15年に「産直市みずほ」をオープンし、以降、町内有数の集客施設として運営を継続してきたが、駐車場の不足、町内の魅力の発信力不足、町全域からの出荷者販路の維持に課題を持っていた。これらの課題を解決し、より大きな経済波及効果をもたらす農業振興と地域づくりの複合拠点「12地区とつなぐ道の駅」として、新たに名称を「邑南の里」に変更してグランドオープンした施設整備である。

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(a)町と県の一体型による整備 (b)脱炭素化を図る施設整備	(a)ワークショップによる住民参画 (a)名称決定過程における住民参画
アピールする 2)「秀でた成果」	(c)ライフサイクルコストの低減 (e)良好な景観形成の実現 (f)地域の活性化 (i)環境保全対策	(c)ライフサイクルコストの低減 (e)良好な景観形成の実現 (f)地域の活性化 (i)環境保全対策
7. 特にアピールしたい点		
邑南町は、島根県の中部に位置する人口約9千人の町で、国指定名勝「千丈溪」「断魚溪」をはじめ、特別天然記念物「オオサンショウウオ」が生息する、豊かな自然に恵まれた町である。町の南側は広島県に接しており、町の中心を縦貫する国道261号を利用し県内に広がる文化財や豊かな自然へアクセスする山陽から山陰への玄関口である。 道の駅「邑南の里」は道路利用者の休憩場所として多くの皆様を迎える施設として、これまで課題となっていた売り場や駐車場の面積を拡大し、出荷者の販路を継続して確保することで、地域の農業振興に貢献することを目的とし、さらに、情報発信機能の強化のため観光協会事務所を構え、町内12の地区の魅力を、地域で活躍する人を手掛かりとして発掘・発信する取り組みを行っている。施設内は、利用者が長時間滞在できる休憩スペースを設け、何度も訪れたくなるような特別な居場所とするべく、中国山地に囲われた緑豊かな田園風景と、石州瓦の赤い屋根が連なる特徴的な景観を活かし、これらの美しい風景と調和する施設となるよう表現した。駐車場には地中熱を利用した融雪設備を導入し、冬季には雪害時の避難スペースとなり、夏季には建物内の空調として活用することで、環境への配慮と省エネルギー化を図っている。子育て世代の安心で安全な利用を図るため、キッズスペース、授乳室を設け、おもつ自販機の設置、絵本の展示なども行うことで幅広い年代に利用しやすくすごしやすい施設となるよう配慮した。		

8. 事業を代表する写真及びキャプション

【位置図】



出典：国土地理院ウェブサイト(<https://www.gsi.go.jp/>)

【全景写真】



【谷間へ連続する芝生広場と石州瓦の家々】

道の駅「邑南の里」は、県中央部を南北に貫く国道261号に接し、県内からのアクセスはもちろん、広島県側からの玄関口にあたり、県内外から訪れた多くの方を迎える拠点施設の役割を担っている。地域の特産品、情報発信機能のほか、多様な人々が自由に滞在できる居場所としての道の駅を目指し、邑南町全体の未来のまちづくりの拠点として、充実した機能を備えている。こうした拠点施設としての機能を確保するために、これまでの道の駅「瑞穂」に比べ、駐車場や情報提供スペースを大幅に増やしている。

全景写真中央の円形屋根が整備施設。山裾の赤い石州瓦の家々が並ぶ風景と調和するよう、色のリサーチを行い、それをもとにムラのある石州瓦風の配色によって屋根を葺いた。建物西側には芝生広場を計画し、背後に構える山並みの谷間に広がる棚田と連続したデザインとすることで、土地に馴染む計画となるよう景観に配慮した。

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元（位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等）〕

【整備内容】

道の駅「邑南の里」は、道の駅再整備構想の検討結果をもとに策定した「道の駅瑞穂再整備事業実施計画書」に基づき、島根県との一体型手法により整備を進め、令和7年8月にグランドオープンした施設である。

（施設概要）整備面積：15,593㎡

小型駐車場100台、大型駐車場6台、地中熱活用融雪設備、トイレ（女性用）10器、（男性用）14器、多目的トイレ3器、おむつ交換台、授乳室、キッズスペース、ベビールーム、情報提供・休憩施設、観光案内所（町観光協会事務所）、産直市、飲食テナント、飲食コーナー、学習スペース、公衆電話、公衆無線LAN、芝生広場、落書き床エリア、バス停留所、EV充電施設

平面図



道の駅「邑南の里」は、「12地区とつなぐ道の駅」を整備コンセプトとして、邑南町内を縦貫し、山陰・山陽をつなぐ主要アクセス道路である国道261号沿いに整備された道の駅である。

12地区とは邑南町の全公民館区を示しており、各地区にはそれぞれ特色ある取り組みや観光資源が存在している。長い歴史の中で育まれてきたヒト・モノ・コトによって、邑南町に暮らす住民にも訪れる方々にも、日々の暮らしを豊かにする魅力がある。

道の駅「邑南の里」は町内最大級の集客施設として、各地区の魅力を集め、発信することにより、来訪を促し、訪れた方々を各地区へ送客し、地域とつなぐことで今後の地域づくり・農業振興に寄与することを目的としている。

【飲食スペースから眺める芝生広場と山並みの景観】

芝生広場ごしに外の風景を眺めながら飲食ができるスペース。普段何気なく眺めていた風景の美しさを改めて感じられるような、印象的な場所となるように施設を配置し景観に配慮した。大きな窓から入る日の光を受け、景観とともに心地よく過ごせる空間として整備している。並べられたテーブルセットは町内12地区の形を模したデザインとなっており、住民参加のワークショップで発見した各地区の特徴を色で表現したマップを添え12地区の紹介をしている。

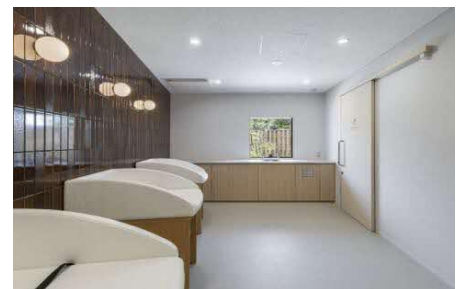


【2階まなびラウンジは木材の温かさを感じる空間】

町内の中高生からの、学校以外に自宅外で勉強できる場所が少ないという声を受け、中高生の新たな学習スペースとして、また学生以外のだれもが心地よく滞在できると思えるおらかな場所となることを目的に整備した空間。町立図書館の図書館司書がお薦めする図書紹介コーナーを設け”本”に触れられる機会も創出している。吹抜け越しに産直市スペースを眺められ、床や壁には町内産木材を使用している。バスを待つ時間、休憩の間、学び合う場として、様々な場面で木材の温かさを感じる空間。

【子育て支援を目的とした空間】

子育て世代にも利用しやすい施設であるために、おむつ替えスペースや授乳室を整備している。また、道路休憩施設として整備している24時間利用スペースにはおむつ自販機を設置している。柔らかいあかりに包まれ、ゆったりとしたスペースの空間をつくることで利用者がリラックスして過ごせる空間としている。また、キッズコーナーにも図書館司書のおすすめ図書コーナーを設け、子育て世代にお薦めの絵本を紹介する空間を用意している。



《住民会議の開催》



【住民参画による施設整備】

様々な場面で住民参画の促進を図っている。12地区ごとに行った住民会議、地区ごとの特徴を色として捉えるワークショップや町内の高等学校と行った”写真””建築”をテーマにしたワークショップを開催することで得た住民の声を計画に反映させている。また、新たな道の駅名称の選定では、町内の小中学校、高校、養護学校の児童生徒の参画によって最終投票を行うことで新名称を決定している。

《選んだ”新名称候補”を投票する児童・生徒》

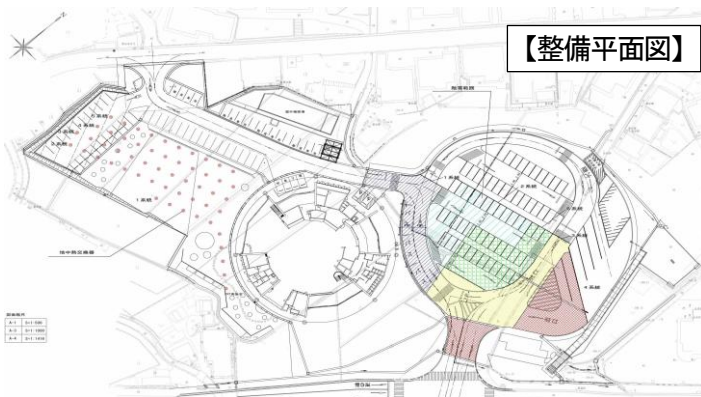


《色彩を決めるワークショップの開催》



【地中熱を利用した融雪設備の整備】

国道261号の道路管理者である島根県と連携して整備する設備として、駐車場には地中熱を利用した融雪設備を導入し、環境への配慮と雪害時の避難スペースとなるよう整備した。近年頻発する豪雪による交通障害の影響を軽減するため接続する国道261号の避難スペースとしての利用が主たる目的だが、この設備の導入により、夏場には建物内の空調としても活用することで産直市に並ぶ野菜などの鮮度維持にも効果を発揮している。また、ライフサイクルコストの削減と、地中熱の伝導効果を高めるため駐車場の仕上げにはコンクリート舗装を採用している。今後、除雪作業の頻度低減や直接循環方式を採用したことなどによる省エネルギー効果も期待できる。



駐車場の着色部分に放熱管を埋設し融雪エリアとしている。

芝生広場に熱交換器を55本設置し、採熱した地中熱を主配管を使い融雪エリア内に設置した放熱管へ循環させている。この循環は屋外機置場に設置した循環ポンプにより行っている。

【整備状況と効果】

屋外施設



屋内施設 ・産直市・物販スペースは約4倍(147㎡⇒643㎡) ・飲食スペースは約3倍(53㎡⇒189㎡)



バス待合場所、情報提供施設は約8倍(10㎡⇒79㎡)



産直市などの売り場面積と駐車場の面積の課題。情報発信機能の強化に関する課題。出荷者の販路の確保に関する課題。の主要な3点を解消することを目的に道の駅再整備に取り組んできた。この整備効果として

令和7年8月のグランドオープン以来たくさんの来場者を迎えており、直近3か月の来場者は対前年比150%超のおよそ18万人となっている。2点目の課題であった情報発信機能の強化によって国道261号沿線その他施設をはじめ周辺施設への来場者も増えている。3点目の出荷者の販路確保に関連し、出品品目や出店者も増加している。

再生可能エネルギーである地中熱を利用した融雪設備による、脱炭素化と省エネルギー効果のほか、子育て支援施設の充実などについても情報発信し、幅広い年代での利用を図ることで、道路利用者にとどまらない、年間を通じて多くの人に安心安全な利用を提供することが期待できる。